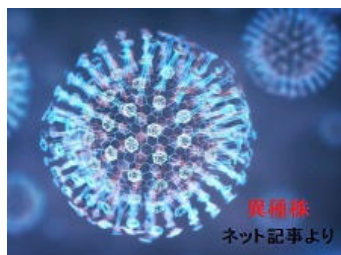


新型コロナウイルス（その 3）

年が明けて、2021 年。

「新型コロナ禍」は何と異種株の発生もあり、その猛威は留まるところなしだ。



昨年の秋までは、「日本人は特殊」論（欧米人と比べて感染しにくい）が独歩したものだが、この有様はどうだろうか。

要するに、「ファクターX」なんて、当初から無くて、単に日本人が他国人に比べて、他人との間隔を取る社会生活、そして清潔好きだけだろう。（キスしない、ハグしない、握手しない等）

最近では、日本でも「医療崩壊」の危機が叫ばれている。

東京も先日（1月上旬）には「新型コロナ」感染者数/日が、1500 人を超えた。

（病院も、指定ホテルもほぼ満床）

現在「新型コロナ」は、「感染症 1, 2 類」に指定されているようだ。

このため、一般医療機関では、その対応が出来にくい。

指定の病院ということになってしまう。

「新型コロナ」の毒性・危険度は、「インフルエンザと同等」という判断は以前からあった。

（危険度、死亡率等から）

そのため、「医療崩壊」に関しては、本質的問題よりも医療体制の構造上の問題でもあるかもしれない。

「その 2」でも言及したように、弱者切り捨て（高齢者、持病持ち）政策「With Corona」が現実のものとなってきた。

これまでの経験から分かってきたことは、「新型コロナ」は飛沫感染が主なようだ。

マスクをした状態で、接近で話をしなければ、感染の危険は低いようだ。（保菌者の場合）

子どもや若い人たちが、無症状保菌者となって、外部から家庭内に持ち込み、在宅の高齢者の感染が広がるケースも多くなってきたようだ。

今後の「ワクチン普及」も重要なファクターになりそう。

しかし、複数の著名な医療関係者が「現在のワクチンは、後遺症等が確認されていないから自分は受けない」というのはどうしたものか。

理性的に考えて「正しく予防する」というスタンスが無いと、ストレスで参ってしまいそう。

2021 年 1 月 8 日